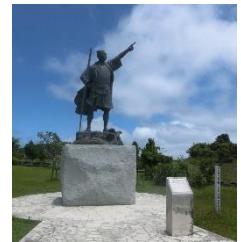


伊是名村立伊是名中学校全教室公開授業研究会



今年度3回目の本島離島からの講師依頼である。今回は今帰仁村の運天港から約1時間フェリーで東シナ海の波に揺られる。なぜか今年は離島からの依頼が続いた座間味小中、伊江小(永島先生に同行)そして伊是名中である。

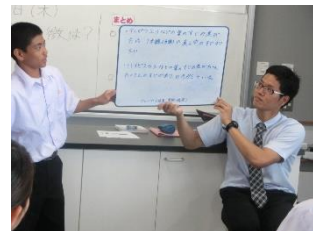


3校に共通していることは、何といたっても学校施設の充実である。3校とも最近建て替えられ、素晴らしい景観のなかにあり、日本国の国民への学習権の保障の手厚さを感じる。

このような学校を発展途上の国々の研究者たちに参観させると、政治と財政の安定、教育への国政の理解の、「うらやましい」羨望の声で終わってしまうのがほとんどである。

さて、伊是名中学校の皆さん(教職員)、今私たちが置かれている状況をどのように受け入れています?自分たちが「うらやましい状況にある」ということを理解し、前向きに生徒達の「学びの保障」へ教師の使命が向けられることに期待します。「島立の日が来る」尚円王の指さすところに生徒達の未来が見えますか。

[1年理科] 葉のつくりとはたらき 「主体的探求型授業とはこれ。」
「聞かされて、書かされて、覚えさせられて、試される」ことが学校で学んだということにはならない(前川喜平)。生徒は葉っぱの筋を夢中になって観察し、それぞれの葉っぱの特徴をワークシートに書き込み、終末はグループごとに1つのボードに結論をまとめて発表するという授業デザインである。モノは生徒を夢中にさせる。右の2枚の写真、この様子がまさに、自分の「分かりたい」に向かう主体的探求が成立している状況である。授業者のモノの準備と課題の下ろし方がシンプルで分かりやすいから生徒はあっさり夢中になり勝手に探究が深まる。授業の「まとめ」やボードの活用についてはぜひ校長先生からの助言をお伺いください。…素敵な授業でした。



[2年 数学] 右の3枚の写真、なんの違和感もなく「きき合い・支え合う」が確認できる。来年はいよいよ島立の受験をむかえる。今私たちは何をなすべきか。教師たちは生徒へどんな力を身に付けさせたら良いのか。この子達の島立への不安を払拭させてほしい。「対話と協同、依存することで窮地を抜け出す力。」この子達の未来を見据えて授業を語ってほしい。
左写真、教師の絶妙な距離感がある。これ以上でもダメ、これ以下でもダメである。



[3年 国語] 穏やかな授業者の表情、安心して教室に居られることがどれほど大切なことか。幼少時代からの仲間達、グループにして向かい合うと支え合うは「当たり前」化している素敵な仲間達である。
「どこへ行けばいい どこに立ち向かえばいい 僕たちは誰に道を聴けばいい … 何にもないこの青い空に…(長渕剛)」
島立の現実から逃避してはいけない。すべての生徒に期待と不安がのしかかる。OECDは30年後の未来について「不確実・曖昧・予測不可能・何が必要とされるかわからない」時代になるという。PISAは、教育はどんな困難や課題にも「解決に向かう意思と力」を身に付けさせる必要性を提言している。…この子らも。



〈焦点授業〉 1年英語 授業者 N・R先生



6校時に1年英語の焦点授業が提案された。授業者は、前任校が名護市の東江中学校で「学び合う授業」についてある程度経験されている。しかし同僚のためとは言え、教室を開き、授業を公開し、同僚の研究のネタを惜しみなく引き受けてくれるN先生に敬意と感謝の意を表したい。さて、焦点授業の目的は？何のために、誰のために…N先生は汗したんだろう。伊是名



中のすべての教師達にその意図や目的が理解されなければ、授業公開者の汗は徒勞に終わることになる。公開授業を参観することで一番に恩恵を受けるのは参観者である。参観者がN先生の授業から学び、各々の教室や授業で具現化されなければならない。

〔授業導入〕

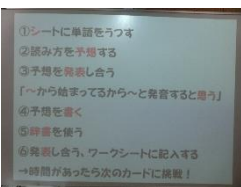
授業開始から5分がゴールデンタイムである。授業のうまい教師ほど終わりより最初の課題を下ろすまでの授業の導入に気を遣う。実際、



授業における生徒の学びの意欲は最初の10分で決まると言っても過言ではない。授業者は1年のこの時期ということと、学級の状態からこのような導入をデザインした。とにかく緊張を解し、身構えることなくみんなが参加できるように気を遣う。右写真、笑顔でグループできき合う仲間達。



めあて：グループで協力して英文を書くルールを見つけよう。A先生の伝わる英文を書く。



電子黒板で本日の授業の流れを確認し、すぐ最初の課題が下ろされた。1年生にとって「分からない」「分かってほしい」ことだらけである。右写真、「きき合い」もまだ不慣れではあるが分かってほしい意欲と課題が生徒達をつなげる。

新年度に入ってまだ2ヶ月である。十分なくらい、主体的探究と、互いに支え合っている方ではないだろうか。

〔課題がつながる必然をつくる〕

もし、今出された課題が簡単で、一人でもできるような問題であれば、そもそも「分かりきっていること」なので学ぶ必然性は発生しない。「分からない」、「一人では解決できない」課題に出会うことによって仲間に依存する必然性が生まれ、互いに訊き合い支え合う互恵的な関係が構築される。この互恵的な関係が教室で完成すると、すべての生徒が「分からなくても」安心して課題に向かうことのできる個人にとって最良の「私の居場所」となるのである。



〔教えるべきことは教える〕 定義やルールは絶対に教師での確認が必要である。（投げっぱなしにしない）

課題解決学習が一般的になった時、思わぬ新たな教授の課題が出た、それは授業者が何でもかんでも生徒達に投げっぱなしの授業スタイルが横行した時代があったという事実です。その状況を見かねて提唱された研究理論が「教えて考えさせる」。定義やルールは生徒達に見つけさせたりしながらもやはり教師で



確認が必要と考える。右写真、授業はこの後2枚目のワークシート（ジャンプ課題？）にみんなで取り組んだ、写真は自分の「分かってほしい」「なぜ？」の探究に向かう学び上手な生徒である。



N先生授業公開ありがとうございました。本日の先生の授業から先生方も多く学べたのではないのでしょうか。残念ながら校長先生は不在でしたが素敵な時間を伊是名中学校で過ごさせてもらいました。感謝です。

給食の時間の平和で和やかな雰囲気には私にとっても感激しました。教師達の穏やかな表情、生徒達の屈託のない笑顔、ほんとに癒されます。



島立から逃れられない生徒達に私たち教師の使命は…何をしてあげなくてはいけないだろう。

彼らが、本島の高校等に進学した時困らないために、どんな力を身に付けさせたらいいだろう。…写真左の少年、彼はどこでもやっつけていけるような気がする。



国頭学びの会ゆい